

臼杵食文化創造都市推進プラン (2022年度～2024年度)



食文化創造都市

臼杵

CITY OF
GASTRONOMY

臼杵食文化創造都市推進協議会
(2022年3月)

I プランの概要

プラン策定の趣旨 ～基本理念～

食は、人々が生きるために必要とした時代から、おいしさを求める時代を経て、現在は、味だけでなく、健康や安全・安心、環境をも求める時代へと移り変わっています。臼杵市は、恵まれた自然環境のもと、健康的と言われる和食を支える発酵・醸造文化や、フードロスの削減にもつながる質素儉約の精神が生んだ郷土料理、市民の健康やプラネタリーヘルスの考えにもつながる、土づくりからこだわった有機農業、フードマイレージの削減にもつながる地産地消の推進や地域資源を生かした商品づくりなど、今の時代が求める食文化を以前から有し、これらに関連した人々や精神、産業がまちを支えてきました。

2020年、本市は、食文化創造都市として、食を軸とした産業振興と持続可能なまちづくりを進めるため、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）創造都市ネットワーク（分野：食文化）への加盟を目指し、これまでの取組の強化を図ることとしました。

ユネスコ創造都市ネットワークは、創造性を核とした都市間の国際的な連携（知識・経験の交流、人材育成、プログラム協力など）によって、地域の創造産業の発展を図り、都市の持続可能な開発を目指すことを目的としています。

2021年11月、本市はユネスコ創造都市ネットワークに加盟しました。これを契機に、本市の食文化に対する市民の理解を深め、シビックプライドの醸成や活力を創出し、他の産業への波及を図り、関係人口の増加や所得向上が更なる振興を生む好循環を創出していきます。先人たちが工夫し、大切に手間と心をかけて培ってきた食文化を磨き、次世代に継承していくとともに、国際的な連携が生む相互の発展を図ることで、「人も環境も健康のもとで、食を楽しみ、次世代につなぐまち」を目指します。

プランの位置づけ

本プランは、臼杵市が持続可能な都市として発展していくために、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を契機に、これまで以上に、食文化を軸とした本市の産業の振興を図る指針とするものです。

本プランは、本市市政の基本方針である「臼杵市総合計画」を上位計画とし、食文化創造都市の確立に向け、「ほんまもんの里みんなでつくる臼杵市食と農業基本計画」や「臼杵市観光振興戦略」など、本市の食文化に関連する他の計画を受け、その実現に向け必要な取組を総合的かつ計画的に推進するための計画と位置付けます。

計画期間

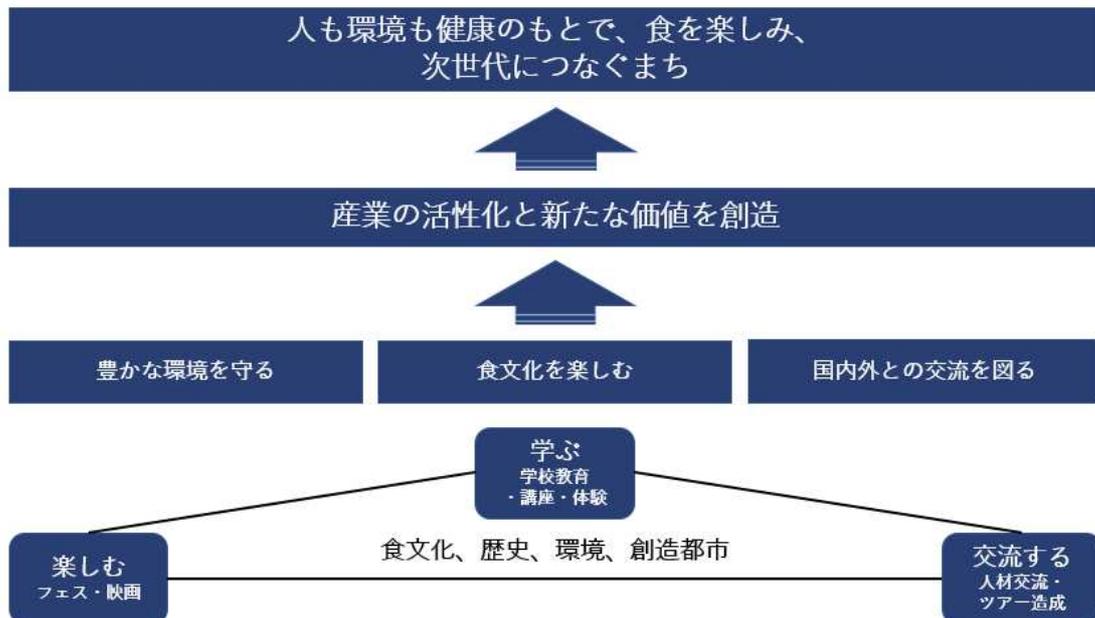
第2次白杵市総合計画（後期基本計画）に合わせ、2022年度から2024年度までの3か年とします。

なお、社会情勢の変化等により見直しが生じる場合は、必要な措置を講じます。

II 基本構想

目指す姿 ～基本目標～

本市の豊かな食文化のもとで、「食を支える豊かな環境を守ること」「食文化を楽しむこと」「国内外との交流を図ること」を市民がともに、学び、楽しみ、交流し、産業の活性化と新たな価値を創造することで、「人も環境も健康のもとで、食を楽しみ、次世代につなぐまち」を目指します。

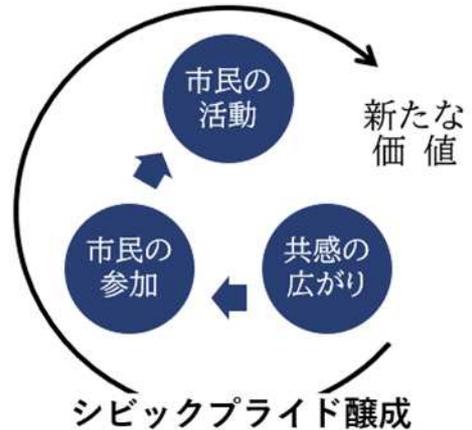


基本的な考え方

目指す姿に向けて、産業の活性化を図るとともに新たな価値を創造するために、以下の考えを持って取り組みます。

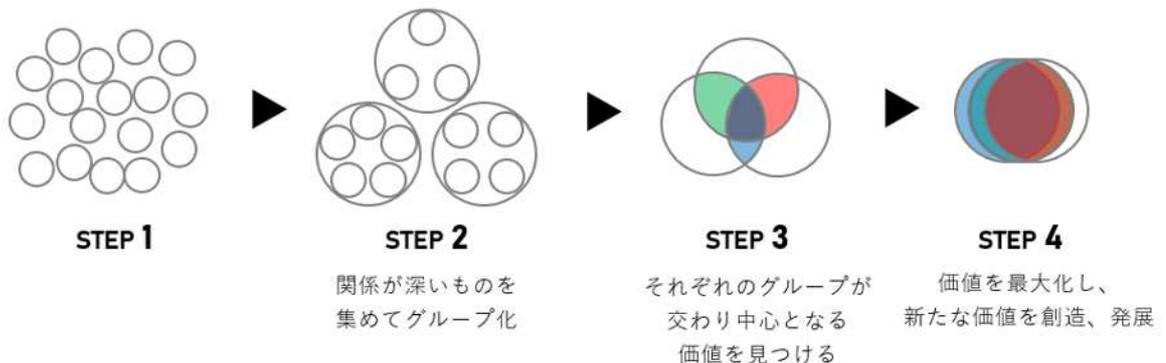
1 シビックプライドを醸成し、市民とともに食文化を核としたまちづくりを進めます。

- ・本市の豊かな食文化と創造都市の推進の重要性における共感を広げ、シビックプライドを醸成します。
- ・シビックプライドのもとで取り組まれる活動への参加を推進し、活動に参加した市民による新たな活動や価値の創造を図ります。



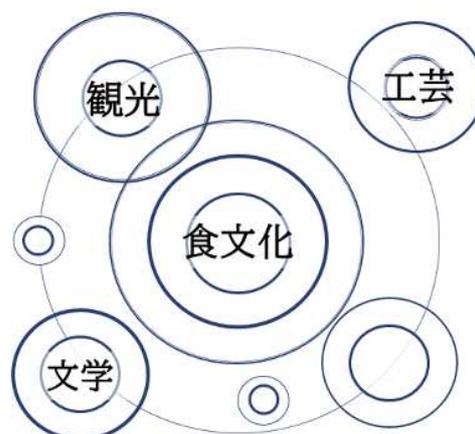
2 豊かな環境や文化を守り、磨き、継承し、新たな価値の創造・発展を図ります。

- ・本市が持つ、豊かな自然環境や長い歴史を誇る発酵・醸造文化、質素儉約などの食文化を守る取組を推進し、先人たちが培ってきたかけがえのない資産を次世代に継承していきます。
- ・食文化を軸として、観光などの個々の価値を磨き、連携させ、多様な人材がお互いを認め合いながら、その価値を最大化させることで新たな価値を創造、発展させていきます。



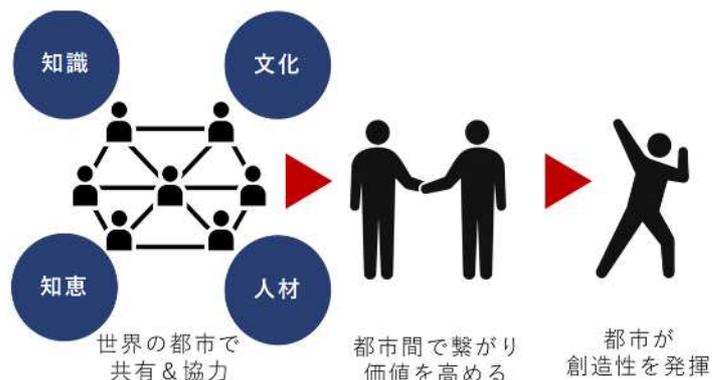
3 食文化を活かし、他の産業の発展や関係人口の増加等への波及を図ります。

- ・本市が誇る食文化を振興することで、観光や工芸、文学など他の産業への波及を図り、市民がいきいきと活動するまちを創造します。
- ・食文化の振興を通じた関係人口等の増加により、まち全体の活性化を図ります。



4 国内外の都市等との連携、貢献を通じて、食文化をはじめとする産業の発展を図ります。

- ・ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市を中心とした地域と交流し、本市の食に携わる人材の育成を図るとともに、本市の経験や技術を公開し、他都市等の課題解決等に貢献します。
- ・本市の食文化を世界に向けて情報発信し、食関連産業等の振興を図ります。



課題

本プランを推進するに当たっては、主に次のような課題を市民や関係者と共有することが必要となります。

- ・本市の文化や歴史、環境などの魅力に対する市民の関心と知識の向上
- ・現代における不健康になりやすい食のリスクと、和食や発酵食、有機野菜などの効能の理解
- ・環境の保全が食文化に恩恵を与えていることの認識
- ・市民や事業者による食文化を活かした新たな活動や商品・サービスの開発
- ・地域資源や、それを活かした一次産品、加工品のブランド化と販路・消費拡大

- ・食文化を支える農林水産物の安定的な生産とフードロスの削減
- ・環境と健康を守る有機農業の更なる推進と地産地消の促進に向けた市民や食関連事業者の意識や知識の向上
- ・食文化を軸とした関係人口の増加
- ・国内外との交流などを通じた、人材の育成と産業の振興、他都市等への貢献

Ⅲ 基本プラン

目指す姿の実現に向けた取り組み

1 シビックプライドの醸成

- (1) 文化と創造性の促進を目的とした教育等の推進及び関心の醸成
 - ・本市の食文化のアーカイブ化や市民全ての健康を促進する食育を推進する。
 - ・子どもや若者を対象に、ユネスコや創造都市、本市食文化の普及啓発を行う。
 - ・小学校等において、農業体験教育や農村民泊、臼杵市土づくりセンターの見学等の、農業を理解し尊さを学ぶ教育や、漁業事業者から漁業や海の大切さを学ぶ教育を推進する。
 - ・給食における「ほんまもん農産物」等の地元野菜の使用率向上を図るとともに、「臼杵ん地魚」等の地元海産物の使用を推進する。
- (2) 一般市民や若者、女性、社会的弱者を対象とした施設の充実や活動の推進
 - ・臼杵市土づくりセンターや臼六オープンラボの充実、稼働向上を促進する。
 - ・サーラ・デ・うすきや臼杵市観光交流プラザの充実を促進する。
 - ・カラフルカフェ等の地域活動の場における食文化活動を促進する。
 - ・オーナー農園の利用を推進する。
- (3) 食文化分野における活動の推進
 - ・食関連事業者等を対象にユネスコや創造都市、食文化の普及啓発を行う。
 - ・本市の地域資源を活用した一次産品や加工品等の開発・生産性向上等を促進する。

2 白杵市の食文化を活用した持続可能なまちづくり

(1) 食品関連産業の強化推進

- ・食品残さの削減をはじめとするSDGsに資する取組の促進などにより、発酵・醸造産業の更なる発展を図る。
- ・地域資源を活用した加工食品の開発等を促進する。
- ・自然環境の保全と人の健康を促進するプラネタリーヘルスを推進する。
- ・有機農業を推進し、市民の安心・安全な食を支える。

(2) 様々なコミュニティ、グループの活動推進

- ・地元農林水産物の生産者団体の活動を支援する。
- ・市内飲食店や進出事業者等による食文化に関連する活動を推進する。
- ・食生活改善推進協議会等の地域活動団体の取組を支援する。

(3) 専門家やクリエイター等を対象とした会議やイベント等の実施

- ・食関連事業者の都市圏における商談会等への参加を促進する。
- ・映画「100年ごはん」や専門誌などを活用し本市の取組をPRする。
- ・海外市場の専門家等との連携による食品や工芸品の販路拡大を促進する。

(4) 研究機関や専門機関の研究開発の促進

- ・食関連事業者や発酵関連事業者と環境保全の大学や研究・専門機関等との連携による研究開発を促進する。
- ・地元食材を使った、和食をはじめとする健康的な料理メニューの開発を促進する。

(5) 都市間、民間等との連携事業の実施

- ・県内の市町村との連携による食文化や工芸等の活動を促進する。
- ・四国・関西圏の入口となる愛媛県と連携した本市食文化のPRや商品・サービス開発を促進する。
- ・NPOや民間企業と連携し人材育成や地産地消やプラネタリーヘルスを基盤としたエコツーリズム等を推進する。

(6) 有機農業者や環境保全型漁業従事者の育成

- ・ほんまもん農産物等の販路・消費拡大を支援する。
- ・有機農業者の移住を促進する。
- ・有機農業者への営農指導の強化を図る。
- ・大分県立海洋科学高等学校と連携し、持続可能な漁業を促進する。
- ・地魚に加え、海面養殖業や潜水漁業の振興を図る。

3 白杵市の主要な文化資産(他の創造分野)を活用した持続可能なまちづくり

(1) 他の創造分野との相乗効果を生む事業の推進

- ・城下町の歴史的建築物や国宝白杵石仏等と連携した関係人口の増加や、工

- 芸等と連携した地元食材や加工品等の販売促進等を図る。
 - ・文学を通じた食文化の普及・啓発を推進する。
 - ・工芸やデザインなどの他の創造分野に資する人材との交流を図る。
- (2) 他の創造分野の発展を目的とした施設の利用促進やイベントの推進
- ・食文化を活かし、文学・芸術施設等の利用促進を図る。

4 ネットワークの目的を達成することへの寄与

- (1) 人も環境も健康になるプラネタリーヘルスを基盤とした白杵スタイルの循環型社会の構築
- ・水源涵養の森づくりや有機農業、海底環境保全、スローフードを推進する。
 - ・完熟たい肥の効率的な生産を促進する。
- (2) 国内・国際交流や貢献の推進
- ・イタリアのパルマ市や東アジアの都市など、発酵文化を持つ都市を中心に交流を図り、人材育成等を促進する。
 - ・大分県内各地域と連携して、食文化の広域的な研究や振興を推進する。
 - ・立命館アジア太平洋大学や別府大学等との連携を推進する。
 - ・食品企業等の海外展開を促進する。
 - ・本市食文化の情報を発信するとともに、有機農業のノウハウ等を共有する。
- (3) 国内・国際レベルの一般聴衆を対象としたイベントの実施
- ・(一社)日本スローフード協会等と連携し、イベント等へ参画する。
 - ・工芸などと連携しクリエイティブツーリズムを推進する。
 - ・食フェスやうすき竹宵と連携し本市の食文化をPRする。
 - ・外国人を対象とした体験プログラムやグリーンツーリズムを推進する。

IV 目標数値と推進体制

目標数値

	項目	現状	目標 (2024年度)	指標の説明
1	食文化関連イベント参加者数	4,052人 (2021年度)	5,737人	食フェス、シンポジウム、ひやくすた等のイベント参加者数
2	食・観光施設利用者数	118,779人 (2018年度)	135,000人	サーラ・デ・うすき及び白杵市観光交流プラザ来館者数
3	食関連新規創業者数	3人 (2021年度)	15人 (2022～2024年度累計)	
4	ほんまもん農産物生産戸数	50戸 (2021年度)	60戸	
5	一次産業新規就業者数【累計】	59人 (2021年度)	100人	
6	外国人観光客数	4,686人 (2018年度)	8,270人	国宝白杵石仏を訪れる外国人年間観光客数
7	観光ガイド利用客数	10,000人 (2018年度)	11,000人	観光ガイドが案内した観光客数
8	食文化創造としての海外交流・連携都市数【累計】	0都市 (2021年度)	5都市	

※観光に関連する項目の実績値は新型コロナウイルス感染症拡大前の2018年度を現状とした。

実践のための基本的指針、体制

2025年を起点とする次期本市総合計画に柱としてユネスコ創造都市ネットワークとSDGsを盛り込むため、双方について強力に推進します。

本プランの推進は、白杵食文化創造都市推進協議会を中心に行います。協議会は、市に加え、産業界、市民団体、教育研究機関、有識者(食品企業、有機農業者、料理人等)で組織するとともに、広域行政を担う大分県や創造都市の県内普及を推進する大分経済同友会、SDGsや食文化及び発酵を専門とする大学教授、歴史料理研究家、物産の専門家にアドバイザーとして参画していただきます。それぞれの事業は、関連する協議会員が共同で取り組み、必要に応じて各分野の専門家(クリエイター、NPO等)をパートナーに加え実施します。

臼杵食文化創造都市推進協議会委員

分類	団体等名	役職	氏名
構成機関・団体	臼杵商工会議所	会頭	小手川 強二
	野津町商工会	会長	林 光男
	大分県農業協同組合南部事業部	農業振興部長	吉田 伸一郎
	大分県漁業協同組合臼杵支店	委員長	薬師寺 正治
	臼杵市商店街連合会	会長	前田 勝雅
	臼杵市料飲店組合	組合長	安野 祐二
	臼杵市農漁村女性組織連絡協議会	会長	中野 菜穂子
	臼杵市食生活改善推進協議会	会長	阿部 多恵
	一般社団法人 臼杵青年会議所	理事長	小川 拓哉
	臼杵のほんまもん食材とエネルギー資源の地域循環に関する協議会	会長	藤居 徹
	一般社団法人 臼杵市観光協会	会長	亀井 啓照
株式会社 まちづくり臼杵	専務取締役	日廻 文明	
教育研究機関	大分県立海洋科学高等学校	校長	淵野 敬三
	大分県立臼杵高等学校	校長	奥田 宏
有識者	市内味噌・醤油製造業		足立 久
	市内酒造業		久家 里三
	飲食業		山本 康文
	ほんまもん農産物推進ネットワーク		藤嶋 祐美
	臼杵市市政アドバイザー		行平 真也
行政	臼杵市	市長	中野 五郎

臼杵食文化創造都市推進協議会アドバイザー

団体等名	役職	氏名
大分経済同友会	クリエイティブ大分委員会 委員長	有松 一郎
立命館アジア太平洋大学	教授	須藤 智徳
別府大学	教授	藤原 秀彦
合同会社FUKUO	代表	木村 真琴
一般社団法人 ひとねるアカデミー	代表	佐藤 陽平
大分県中部振興局	局長	森 優子
大分県芸術文化スポーツ振興課	課長	足立 博

臼杵食文化創造都市推進協議会ワーキンググループ

団体等名	役職	氏名
可兒醤油合資会社	代表社員	可兒 愛一郎
株式会社 久家本店	総務課長	足立 理恵
yomoyamaya	代表	山崎 誠
大分県中部振興局 農山漁村振興部	部長	石井 修三
大分県中部振興局 地域創生部	部長	山本 勝紀
大分経済同友会	調査部長	三浦 宏樹
川口屋旅館別邸 久楽	専務	亀井 諭
教育委員会 文化・文化財課	主任	鎌谷 涼平
臼杵商工会議所	推進役	松尾 堅太
臼杵市	地域おこし協力隊	増本 郁子

臼杵食文化創造都市推進協議会事務局名簿

所属	役職	氏名
事務局統括	副市長	田村 和弘
食文化創造都市推進特命	政策監	佐藤 一彦
産業促進課 食文化創造都市推進室	室長	首藤 英樹
産業促進課 食文化創造都市推進室	主査	安達 大樹
産業促進課 食文化創造都市推進室	主査	堤 大地
総務・企画担当	政策監	加島 和弘
秘書・総合政策課	課長	安東 信二
産業促進課	課長	佐藤 忠久
おもてなし観光課	課長	中尾 敬
農林振興課	課長	目原 康弘
農林振興課	参事兼有機農業推進室長	竹尾 智明
教育委員会 文化・文化財課	課長	後藤 昌二郎
教育委員会 学校教育課	参事	麻生 幸誠

用語解説

○アーカイブ [P 5]

大切な情報を、後に利用しやすいように管理すること。

○カラフルカフェ [P 5]

年齢や性別、障がいの有無に関係なく、みんなで楽しく時間を過ごし交流できるカフェ。白杵市が余暇活動の場づくりとして、定期的（月2回）に休日に開催しているイベント。

○関係人口 [P 1、4、5、6]

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる地域外の人々のこと。地域づくりの新たな担い手となることが期待されている。

○シビックプライド [P 1、3、5]

「都市に対する市民の誇り」のこと。単なる自慢や郷土愛ではなく、自分自身が関わって地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心を指す。

○スローフード [P 7]

イタリアで提唱された、環境、健康を害さない多様性に富んだ地域の食物、またそれらを見直そうという運動。○フードマイレージ [P 1]

食料の輸送量に輸送距離を掛け合わせた指標。単位は t・km（トンキロメートル）で表される。生産地から消費者の手元まで運ばれる距離が長いほど、CO₂の排出による環境汚染を加速させてしまうという点に着目し生まれた指標。なるべく地域内で生産された食物を消費しようとする「フードマイルズ運動」につながっている。

○プラネタリーヘルス [P 1、6、7]

人は地球のシステムの一部であり、人の健康は、地球の健康（環境）を含む様々と深くつながっているという考え。

○フードロス [P 1、5]

まだ食べることができるが、生産、製造、販売、消費等の各段階において発生し、廃棄される食品のこと。